

紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウスでの局所散布のタバココナジラミに対する効果

紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウスのタバココナジラミは、発生が多いサイド開口部に面した株のみに、散布回数の制限がない気門封鎖剤を約 7 日間隔で 12 月中旬まで散布することにより増殖を抑制できる。

農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室 (担当者: 樋口聡志)

研究のねらい

紫外線カットフィルムは、タバココナジラミのハウス内への侵入とハウス内での移動分散を抑制する物理的防除資材である。紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウスではサイド開口部に面した株で発生が多くなり (平成 20 年度成果情報)、発生が多くなる株を重点的に防除することで効果が向上すると考えられる。

県内の施設野菜に発生しているタバココナジラミはほとんどがバイオタイプ Q であるため、効果の高い薬剤は少なく、散布回数が限られている。そこで、散布回数の制限がない気門封鎖剤を発生が多くなるサイド開口部に面した株のみに散布し (以下、局所散布)、その防除効果を明らかにする。

研究の成果

1. 気門封鎖剤であり、散布回数の制限がないオレイン酸ナトリウム液剤 (オレート液剤) の約 7 日間隔の局所散布は、成虫に対する効果が低いものの、幼虫には高い効果が認められる (図 2)。
2. 促成栽培では、野外からハウス内へのタバココナジラミの侵入が少なくなる 12 月中旬までを目安として局所散布することで、発生を長期間抑えることができる (図 2)。

普及上の留意点

1. 局所散布は、野外からハウス内へタバココナジラミが侵入する時期を主体に用いる。
2. 気門封鎖剤による局所散布は、タバココナジラミ媒介のウイルス病に対する感染抑制効果が期待できないので、定植時期の粒剤処理や全面散布と組み合わせて使用する。
3. 野外からハウス内へのタバココナジラミの侵入が少なくなる 11 月中旬に、成幼虫に対して効果の高い薬剤を散布すると、それ以降の局所散布は省略できる。
4. 気門封鎖剤の種類により、タバココナジラミに対する効果が異なる。

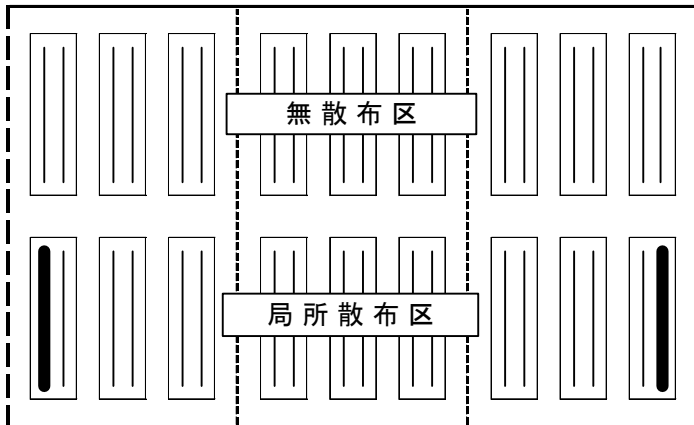


図1 紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウス図と散布株

■：散布株（サイド開口部に面した株のみに散布）

供試フィルム：カットエースクリナイン
 サイドおよび谷開口部：目合い0.8mm 防虫ネット設置

2007年9月26日に、トマト720株を定植した。

栽培条件（畦間180cm，株間50cm，2条/畦，3畦/棟，斜め誘引整枝法）

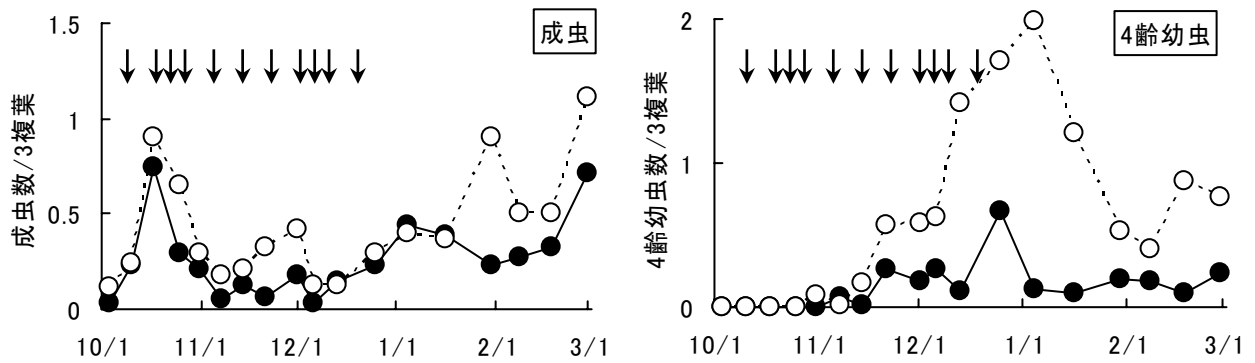


図2 タバココナジラミバイオタイプQに対する局所散布の効果

局所散布区 【ルイ酸ナトリウム液剤 100 倍（散布日 10/10,17,25,31,11/7,14,21,12/1,6,13,25）】

無散布区

紫外線カットフィルムを展張した3連棟トマトハウス（図1）で試験した。

ジノテフラン粒剤 1g/株を全株に定植時処理した。